

OSK KHJ 岡山きびの会

平成 12 年 9 月 20 日 第 3 種郵便物認可(毎月 25 日発行)

平成 29 年 1 月 21 日 OSK 増刊通巻 505 号

<http://kibinokai.ciao.jp> 「メッセージ・21」

第 160 号(平成 29 年 1 月)



Copyright : M

『KHJ 岡山きびの会』のご案内』

2016 年度 年会費 正会員 6000 円 賛助会員 3000 円
月例会参加費 正会員 500 円 正会員以外の方 1000 円
郵便振込先 01380-6-77803 KHJ 岡山きびの会

※ご入会・ご寄付は随時受け付けております。

連絡先 会長 川島核三 〒708-0821 津山市野介代 5 2 6 - 3 0 【電話】090-7541-5263

居場所 岡山市北区表町 1 丁目 4-64 上之町ビル 4 階 (市電・城下電停すぐ、アーケードに隣接)

月・水・土曜：午前 11～午後 4 時、金曜：午後 1 時～6 時 (詳しくは巻末をご覧ください)

「KHJ 岡山きびの会」の願い

不登校・ひきこもりの子どものことで悩んでいる親どうしが情報を交換し、親の気持ちが癒され、元気づけられ、「この子がいてくれて本当に良かった」と心から思えるようになることを目指します。そして本人たちが自分の意思と選択と決定において生き生きとして社会参加できるようになることを支援します。

グループでの話し合いの約束

- ここでの話はここだけのことにしましょう。
- 相手の話は受容しながら聴きましょう。
- 非難・批判はしないようにしましょう。
- 長く会に参加している人は新しい人に手をさしのべましょう。

<平成29年1月例会のお知らせ>

日 時 平成29年1月8日（第2日曜日）午後1:00～4:00
場 所 きらめきプラザ2階 ゆうあいセンター 大会議室
岡山市北区南方2丁目13-1 電話:086-231-0532
内 容 ●「僕の人生はエンターテイメント」
下田亮太さん KHJ高知やいろ鳥の会の若者
●ひきこもり相談会（役員による来談者へのオリエンテーション）
参加費 正会員 500円 正会員以外の方 1000円

<平成29年2月例会のお知らせ>

日 時 平成29年2月12日（第2日曜日）午後1:00～4:00
場 所 きらめきプラザ2階 ゆうあいセンター 大会議室
岡山市北区南方2丁目13-1 電話:086-231-0532
内 容 ●「当事者主体の社会づくりをめざして」
難波規子さん（もみじの会会員・精神保健福祉士）
●ひきこもり相談会（役員による来談者へのオリエンテーション）
参加費 正会員 500円 正会員以外の方 1000円

12月例会報告

「きびの会を今後どうするか??」

問題提起—「KHJ岡山きびの会」会長・川島焔三

「12月例会へのお誘い」のお手紙を私が書いた時（10月28日）には、我が家の長男はまだ生きており、しっかりと生き抜いてくれると信じていた。しかし私の病気に対する認識が甘く、翌日の29日に入院し、11月1日の21時5分には永眠してしまった。その息子が生きて行ける社会を目指して私は「KHJ岡山きびの会」の活動をしてきた。長男が亡くなった今、次男はまだ幻覚の中におり、私は日夜苦悶し、個人的には会の活動を続けることにどんな意味があるのかと考えざるを得ない。

私の子育てはある意味で失敗したということになりますから、失敗例など聞きたくもないという方がおられるかもしれません。それでもどこが悪かったのか聞いてみたいと思われる方はどうぞお聞きください。二度とこのような事例を出さないためにはどうしたらよいかを皆で考えることは大いに意味のあることと思います。

今日お配りした二つの資料は2年前備前県民局主催の研修会でお話させていただいた議事録とその時自己紹介用に纏めた私の人生の大枠です。

自己紹介の2ページ10番目「次男の発症と長男の異常」が今日の話の取っ掛かりになります。先日の中四国のブロック会議で、次男の行動をめぐって意見の対立点が浮き彫りになりました。会議の先導役のS女史は、その行動を病気と断定し、ある県の会長は息子のそのような行動を叱ることのできない親を人間として否定するとまで言われた。しかし私はそのことが引き金で次男は病気にさせられたと考えている。一つ一つの行動は評価の仕方によってこれほどまでに違うこともあるということを理解しておく必要があります。引きこもりの問題もそのような誤解とすれ違いから起こるのであり、そのようなことが起こらないようにするにはよくよく事の真相を確認する作業が必要です。お互いの本音を確認する作業が大切です。

議事録の6頁の真ん中より下の問題のように、お互いによくよく知り合っている間柄でも、決定的に違う判断をする場合があります。お互いに違った環境で育ちますから、その感受性も一人ひとり皆違って当然です。ところが皆自分の考え方が正しいと思い込んでいるところがあります。つまり共通の理解をすることがなかなか難しいのです。お互いに常に共通の場を設定していかないと、議論が混乱したり、立場の強い人の考えを押し付けたりすることになります。それが違和感となり、どんどん膨らんでいって、にっちもさっちもいなくなることもあります。長男の想いはそんなところと関係しているように思われてなりません。次男の行動に関して、先方の父親の想いと私の想いとが決定的に違っていたようです。お互いにしっかりと話し合う機会さえあれば、次男は病気にならなくて済んだと私は今でもそう考えています。

ですから次男の行動はその行動を起こした時点で病気であったと判断したS女史の判断と病気にさせられたという私の判断は平行線なのだろうかという問題が残ります。それ以上の議論の進展を試みようとしなかった事例検討会に私は失望したのでした。

私たちの会の話し合いでもお互いの意見や感受性を大切にしながら、共通に理解できるところから出発することが大切ですし、私もそのように心掛けてきたつもりです。15年もこの会が続いてきたことは、この会に何かの拠り所を感じてきた人たちによって支えられてきたことになりました。

それではこれからどうするか。「KHJ岡山きびの会」を存続させていくのか、止めていくのか。「止めましょうや!!」という発言は誰もしませんでした。「12月例会へのお誘い」を会員の皆様には、今回は特別に私の私信として、参加を呼びかけましたが、参加されなかった方は

「どちらに転んでも仕方ない」と考えられたと解釈させていただきます。

私は個人的には長男が亡くなってしまい、言うべきことは今までに言ってきたし、これ以上言っても無駄かなと思うこともありますが、客観的普遍的な制度を求めて、やってきた活動ですので、その発言に責任があると言われる人が一人でもおられるならば、その人・その人たちと、どうしたら「誰もが希望を持てる社会」の構築に貢献できるかを相談していきたいと考えています。

その際大切な観点があります。資料・議事録の「質疑応答」の最後のところに関してですが、自己紹介文の2の所に関連します。これは私の恥ずかしい体験ですが、自分の過ちをどの様に克服するかにかかっています。人は誰でも一つや二つ、あるいは一杯過ちを犯します。大切なことは、その過ちを隠すのではなく、自らカミングアウトする勇気です。これが中々できない。その勇気さえあれば自分自身を乗り越え、客観的普遍的な道への通路が開かれます。大切なところを隠しておいて、ごまかし続けるとしたら、共通の場が開けず、客観的普遍的な世界は霧の中で、何が何だかわからず混乱だけが残ります。

つまり正しい認識の条件は自らを正しくカミングアウトすることです。池上正樹さんの周りで展開されている「引きこもり大学」はその可能性を秘めております。「ひきこもり」は全く主観的個人的なことです。しかし様々な主観的個人的な考えを基にして、初めて客観的普遍的な世界が開かれてきます。これが難しいから人間の世界には様々な誤解や悪意や勘違いがあり、それらのことが様々な不幸を生み出してきました。私が研究してきた哲学の世界では、田辺元の「懺悔道としての哲学」(METANOETIK)が有名です。

「KHJ岡山きびの会」をどうするか。会員一人一人が主体的に何を望んでいるのか。「KHJ全国大会 in 山形」の大会テーマ「誰もが希望を持てる社会をめざして」を望んでいるのではないか。そうであれば答えは簡単です。それに向かってみんなで頑張りましょうということになります。

岡山県も「引きこもり地域支援センター」を来年度から設置する方向で検討を始めているとのこと。岡山県は2003年7月に「10代・20代を中心とした“ひきこもり”をめぐる地域精神保健活動のガイドライン」が厚労省から出ると、直ぐに他県に先駆けて、私たちの会に委託金を下ろし、支援をしてきました。しかし「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」が出た時には、「ひきこもり地域支援センター」の構想には乗らず、独自の対策を進めてきました。岡山県と佐賀県には当センターがなかったけれど、国の施策に合わせるが必要になってきた。つまり岡山県内の市町村は地域によって対応が違い、県のその指導力が問われてきた。そこで何らかの統一的な方針が求められていることになる。

目下世の中は「一億総活躍社会」の掛け声とともに、“ひきこもり”を“おいてきぼり”にしてよいとの理屈は通らなくなりました。“誰もが希望をもてる社会”にするには、ひきこもっていた人たちが積極的に発言できる場を提供し、彼らに発言する機会を用意することです。引きこもってきた人々を救える唯一の道は、彼らにひきこもってきた理があり、その理に耳を傾ける人々の心の中にあります。ひきこもる人々は「欲望の肥大化を否定して今の世の中に警笛を鳴らし続けている」と捉え切ることです。引きこもる人々の一人一人の眼に合わせて、何が理解できるかを見定め、その訴えにそっと寄り添うことでありましょう。それが客観的で普遍的な学問の道に結びついていくことでしょう。

お知らせ掲示券

岡山県における「ひきこもり地域支援センター」の構想をどうするか。

2月例会に予定していましたが、県の都合で3月にすることにしました。1月中旬にほぼ構想がまとまるとのこと。これまでの県の構想ではいけないことがはっきりしてきましたので、何か新しい構想を立てなければならなくなりました。岡山県は他県に先駆けて先進的な構想を立ててきたのですから、今回も大いに期待してよいのではないかと思います。

NPO法人津山・きびの会

トトロの家の住所

708-0863 津山市小桁 137-2

連絡は川島の携帯をお願いします

ほぼ二月に一度「トトロサロン」を開いています。3月の末には「カタクリの花を愛でる会」、6月には「料理教室」、8月には「ソーメン流し」、10月には「収穫祭」、1月には「一品持ち寄り新年会」等々。年2回の「にぎわい市」には「焼きそば屋さん」を出店します。お気軽にお出かけください。

連絡先 川島カイ三 (090-7541-5263)

ご感想・ご意見 (12月例会)

テーマ「きびの会を今後どうするか??」

*会長の問題提起は会長自身の事例検討を主としてお話して下さったが、その問題

提起とテーマの結びつけが難しく感じた。

*後半の話し合い・・・、きびの会は無くしては困る、役に立てることがあれば協力し

ますという意見があった。一時間程度の話し合いが月例会の中にあればよい。

*西先生の家族教室は続けてほしい。一人一人自分たちで事業を起す

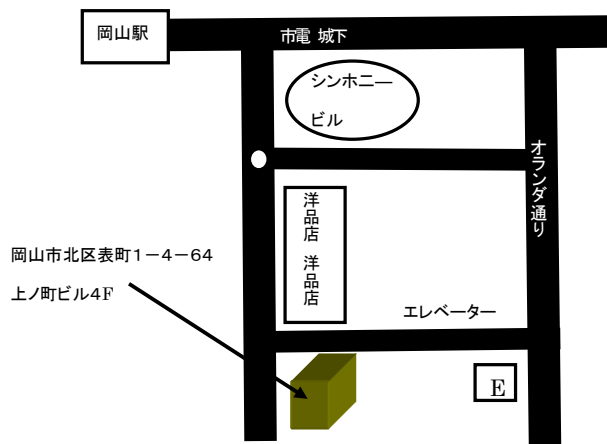
**当事者学級
(AU会)**

1月はお休みです。

きびの会 居場所・行事カレンダー
1・2月きびの会居場所・行事カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6 居場所	7 居場所 父親学級
8 1月例会	9 祝日	10	11 居場所	12	13 居場所	14 家族教室 居場所
15	16 居場所	17	18 居場所	19	20 居場所	21 松田先生 居場所
22	23 居場所	24	25 母親学級 居場所	26	27 役員会 居場所	28 若者学級 居場所
29 AU会	30 居場所	31	2月1日 居場所	2	3 居場所	4 父親学級 居場所
5 2月例会	6 居場所	7	8 居場所	9	10 居場所	11 建国記念日

岡山きびの会 居場所



家族教室 (原則)第2土曜日 午後1時半～4時 担当:西紀子さん

松田相談日(原則)第3土曜日 午前9時～午後6時 担当:松田勝カウンセラー

ご予約:中西 電話 090-9500-9618 または 086-955-2857

料金:会員は1時間3,000円 ※定員8名とさせていただきます

母親学級(原則)第4水曜日午後1時半～4時 当事者学級(原則)最終日曜日 午後1時半～6時

父親学級(原則)第1土曜日午後1時半～4時 健康教室 (原則)第3木曜日午前11時～4時

若者学級(原則)第4土曜日午後1時半～6時 担当 大阪府療術師会会員 大塚桂子さん

PC教室 (原則)第3水曜日 午後3時～5時 役員会 第4金曜日 午後1時半～4時

お問い合わせ:花谷 電話 080-1908-3861

関心のある方はどなたでもご参加ください

平成12年9月20日 第3種郵便物認可 (毎月25日発行) 平成29年1月21日発行 OSK増刊通巻505号

発行所:岡山障害者団体定期刊行物協会 702-8025 岡山県岡山市南区内尾739-1 綾部小百合 (TEL 086-298-1162)

無断での掲載、転写は禁じます。(定価100円は会費に含まれています)